

京の あじえんだ

のアジェンダ21フォーラム ニュースレター

季刊誌

2017

春

第28号



- * 京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクト…………… 2
10周年インタビュー 活動と思い 特定非営利活動法人アイセック・ジャパン/株式会社北斗プリント社
- * 京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクト 活動報告…………… 3
- * KESエコロジカルネットワーク…………… 4
- * 雨庭のススメ…………… 5
- * 京都SDGsマップ作成プロジェクト…………… 6



「アジェンダ21」とは「21世紀への検討課題」という意味。
「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて
環境と共生できるまちの姿を描いていきます。

KES エコロジカル ネットワーク

2014年に策定された「京都市生物多様性プラン」に基づき、京のアジェンダ21フォーラムが創設し、京都市内でも多くの企業や学校等が導入している環境マネジメントシステム「KES」の活動の中に生物多様性を取り入れて頂き、それをネットワーク化することを進めようとしています。

2017（平成29）年度の活動に向けて

KESエコロジカルネットワークでは希少植物の育成対象を昨年までフタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、オミナエシ、カワラナデシコの6種類として、育成に取り組んで頂いていました。

2017（平成29）年度は新たにアヤメ、ワレモコウを加え、対象植物が8種類となります。

今年度から対象となった植物

アヤメ

アヤメ科の多年草。5月に紫と黄色の美しい花を咲かせます。よく似た花としてカキツバタ、ハナショウブが挙げられますがこちらは水の中で育つ水生なのに対し、アヤメは陸生です。また花の文目の模様でも見分けることができます。

近年シカによる食害を受けており、京都府レッドデータブックでは準絶滅危惧種（2002年）から絶滅危惧種（2015年）に引き上げられました。



ワレモコウ

バラ科の多年草。7～10月の秋に紅紫色の稲状の小さな花をつけます。わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花としてもよく使われます。根・根茎を天日乾燥させたものは、生薬となり、吐血、下痢、やけどなどの治療に用いられます。若い葉は食用にもなりました。東アジア、シベリア、欧州に広く分布。京都周辺では、近年、自生地の丘陵などで見かけることが減っています。



*KESエコロジカルネットワークも協力して東山・菊溪川の再生が進められています

市民×地域×企業との連動による森づくりの展開～キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ～

京都市及び京都伝統文化の森推進協議会が、東山菊溪川で再びキクタニギクを再生させることを目的とした活動を行われています。市民や地域、事業者の皆様との協働により進めています。

この取組での植栽用の苗に、KESエコロジカルネットワーク参加企業が育成するキクタニギク苗木も提供されました。

今回キクタニギクの苗の提供にご協力いただいたのは以下の通りです。

（順不同、敬称略）京都生活協同組合 / 株式会社元奈古 / 日本新薬株式会社 / 光星電工株式会社 / 武村建設株式会社 / 吉田商事株式会社 / アール・エス・ティエンジニアリング株式会社 / 阪神トラック株式会社 / 株式会社西川製作所 / 株式会社三協電機製作所 / 株式会社吉川工務店

3月4日（土）にKESエコロジカルネットワーク参加企業の育成したキクタニギクを植栽しました。



キクタニギクとは？

キクタニギクは、京都東山の「菊溪」に自生していた希少種です。京都府レッドデータブックで絶滅危惧種に指定されています。名前の由来となった東山菊溪では、現在自生の確認はされていません。キクタニギクはキク科の多年草で、秋になると黄色い小花が多数咲きます。かつては香料や傷薬として使用したり、葉や花を食用としていたといわれています。別名「アワコガネグク」「アブラギク」とも呼ばれます。府内でも環境の変化や鹿による食害で希少になっています。



あめにわ 雨庭の ススメ



京のアジェンダ21フォーラムでは今“雨庭”に注目しています。

雨というと、雨水を溜めて花の水やりなどに利用する雨水タンクをご存知の方は多いと思います。個人の自宅から学校、会社などで水道水を使うより節約になるしエコだとタンクを設置し、取り組まれている所もたくさんありますね。雨庭は少し違います。

雨庭ってなに？

雨庭とは、アスファルトや屋根などに降った雨を集めて一時的に貯留し、地下に浸透させるための都市空間における庭のことです。

雨庭という概念は1990年にアメリカのメリーランド州で下水の負荷軽減、水質浄化、地下水涵養などの治水対策のひとつとして生み出されました。アメリカはもとよりニュージーランドやドイツ、イギリスなど、すでに海外では普及しつつある取り組みです。

雨水を蓄え、1~2日程の時間をかけてゆっくりと水が地下に浸透するよう土壌改良を施した緑地のことを指します。都市部ではアスファルトやコンクリート舗装のため水の流れる場所が限られ、近年問題となっているゲリラ豪雨のように一時的に大量の雨が降った際は、雨水が下水に一気に流れ込み河川の水位が急上昇したり、排水溝から水があふれたりするリスクが高くなってしまいます。雨庭を取り入れることで、そういった問題の軽減が期待されています。

溜まった雨水が一定量以上になると排水され、流れ出す仕組みになっています。



住宅の庭や広場、駐車場の隅、道路の植栽帯などに設置することができるのではないかと注目されています。

日本でもグリーンインフラ[※]のひとつとして研究が進められています。

※自然の持つ防災や水質浄化などの力を積極的に利用した環境配慮型の社会基盤整備。

雨庭にはたくさんのメリットがあるといわれています。

- 雨水を地面に浸透させることで、雨が降った際に河川に水が一気に流れ込むことを抑制
- 地下水を涵養することに繋がり、湧水が保全される
- 雨水が土中を通過する過程で汚れなどが分解、吸着され水質浄化の効果がある
- 都市化によって減少した生物の生息地になり生物多様性を保全
- 雨庭から蒸発した水によるヒートアイランド現象の緩和
- 緑が増え、景観改善
- 子どもたちが自然に触れ合える場所を提供できる
- 一緒に作業を行うことでコミュニティの交流促進につながる など